



Georg Heinrich von Langsdorff
Bemerkungen auf einer Reise um die Welt
in den Jahren 1803 bis 1807
Frankfurt, 1812
ラングスドルフ著 『世界周航記』

著者のラングスドルフ (Georg Heinrich von Langsdorff, 1774-1852) は、ドイツの博物学者。クルーゼンシュテルン艦長 (Adam Johann von Krusenstern, 1770-1846) 率いるロシア最初の世界周航隊 (1803-1806) に参加した。

バルト海、大西洋、太平洋を経て日本を訪れた一行は、北海道の沿岸を調査した後、長崎へ進む (1804)。ロシアの世界周航の目的の一つは日本との通商の確立であったが、遣日使節レザノフ (Nikolai Petrovich Rezanov, 1764- 1807) の6ヶ月にわたる交渉は不調に終わった。

本書は、ラングスドルフ帰国後の1812年にフランクフルトで出版されたもの。周航各地の自然、動植物、民族などに関する調査記録を収めるほか、多くの銅版画が日本を始め世界の習俗を今に伝える。